

〔第4回〕

NCGG-RI 研究発表会

National Center for Geriatrics and Gerontology, Research Institute

歯髄幹細胞を用いた 歯髄・象牙質再生治療

幹細胞再生医療研究部
中島 美砂子 部長

2015年12月8日(火) 16時30分～
第1研究棟2階大会議室

現在歯の寿命は60歳程度で、超高齢社会におきまして、一生自分の歯でしっかり噛むためには歯の寿命を20年から30年延ばす必要があります。しかしながら、現在の治療法では、歯髄炎となっていた歯髄（歯の神経）を除去してしまいますと、歯の寿命が短くなり、全身の健康状態にも影響を与えてしまいます。私共はこれまでに、智歯などの不用歯から自家歯髄幹細胞を加工し、抜髄した歯に遊走因子G-CSFとともに移植すると歯髄が再生され、歯冠部が再生象牙質でふさがることがわかりました。すなわち、この歯髄・象牙質再生治療法により、歯を抜かざるを得なくなる前に歯髄・象牙質を再生させ、正常な機能をもつ歯に回復させ、歯を長持ちさせることができる可能性があります。

本報告会では、まず、この歯髄再生治療の臨床研究承認に至るまでの研究概要（細胞特性試験、安全性確認試験、イヌ非臨床安全性・有効性試験）をお話しします。次に、主要目的として安全性確認、副次目的として有効性確認として、平成25年4月から行いました臨床研究、5例の結果をご紹介します。最後に、今後の展望をお話ししたいと思います。

座長：下田 修義